

# つばめ会会報

## “Slope”

第16号

### 目次

幹事長の挨拶

インカレロング報告

執筆協力：奥田健史(16期)

第16回 OLT 杯報告

第16回東工大 OLT 杯報告書

斎藤孝男(23期)

OLT 杯を振り返って

前田裕太(24期)

OLT 杯所感

仁多見剛(20期)

第12回クラブカップリレー報告

監督として、選手として ~クラブカップ 2004

多摩 OL 監督 A チーム 7 走 円井基史(19期)

OLT 夏合宿の感想

川俣智(20期)

近況報告

近況

太田宏樹(14期)

近況報告

小坂猛(16期)

No Vacation

萩谷太郎(19期)

近況報告

仁多見剛(20期)

富士での生活

浅野剛司(21期)

つばめ会総会議事録

2004 年度会計

2004 年度活動報告

ML・ホームページについて

編集後記

## 幹事長の挨拶

19期 円井基史

月日の経つのは速いもので、もうすぐ2004年が終わろうとしています。来年は2005年で、いよいよ世界選手権が日本にやってきます。果たして日本オリエンテーリング界にレヴォリューションは起きるのでしょうか。スターは誕生するのでしょうか。

ふと我が身を振り返れば、オリエンテーリングを始めて8年半、OLTを巣立って4年半が経ちます。僕は19期ですが、今のOLT1年生は、27期になります。昔は麻雀部だったというOLTも、今や衰退ぎみの学生オリエンテーリング界において、確たる地位と実力を有するチームになりつつあります。11月に行われたインカレロング(日本学生選手権ロングディスタンスの部)(インカレは今年から秋にロング、春にミドル、リレーと日程が変更しました)において、4年生の前田裕太選手が見事3位入賞を果たしました。

1年半前、新潟で行われた全日本選手権で、僕はゴール後、クーリングダウンのためジョグをしていました。そんな僕に話しかけてきたのが彼でした。彼は寡黙な人間でしたが、強い向上心を持っていました。僕はクーリングダウンの間、ずっと彼に自分のトレーニング論について話したように記憶しています。彼は僕が話した生理学的なトレーニング論を自分の血肉とし、自らのトレーニング論を築いていったようです。また、最近では様々な環境へ飛び込んで出稽古を行っており、その飽くなき向上心が彼の強さの一端であると感じられます。

つい先日、関東のミドルセレが行われました。OLTから多くの上位通過者が出ました。いよいよ春のイ

ンカレミドル・リレーへの舞台が近づいてきました(ちなみに今年からリレーは3人制です)。生まれ変わったインカレで、強くなりつつあるOLTがどのような活躍を見せてくれるか、今から楽しみです。

我々つばめ会も、彼らの躍進の後押しができるよう、ときには手を差し伸べ、ときには暖かく見守り、そしてともに盛り上がって行きましょう。

## インカレロング開催

前田裕太選手(4年)が3位入賞!

11/7(日)に愛知県下山村・額田町で行われた「インカレロング」で前田裕太選手(4年)が男子選手権クラスで3位入賞という快挙を成し遂げました。

インカレロングは昨年度まで春に行われていたインカレクラシック(個人戦)に相当する種目です。選手権クラス3位はOLT史上最高順位で、入賞(6位以内)は世古口裕史氏(16期)以来2人目になります。

今回のインカレロングはJOA主催の「東日本大会」と併催されており、浅野さん(12期)が運営されていました。菊澤さん(22期)がM21Aで5位に入り、来年度のJOA公認大会M21E(男子選手権クラス)出場権を獲得しました。また、上記の前田選手と円井さん(19期)も今年度の全日本大会M21E出場権を獲得しました。

また、つばめ会としてインカレロングのプログラムに応援広告を掲載しました。以下に掲載します。

### Fight! 東京工業大学!

*Classical Eletes*

選手権クラスも  
一般クラスも  
全力で頑張れ!

From つばめ会



A.Koyama(1)



H.Oka(3)



Y.Maeda(4)

(付録) インカレ選手権クラスにおける OLT の歴代入賞者(敬称略)

年月	場所	種目	順位	氏名(当時の学年)
1995.3	静岡	団体戦	5位	齋藤(3) - 太田(4) - 世古口(2) - 平山(3)
1995.10	日光	ショート	2位	世古口裕史(3)
1996.3	日光	クラシック	6位	世古口裕史(3)
2000.11	滋賀	ショート	6位	蔵田真彦(2)
2003.3	愛知	リレー	4位	井ノ川(4) - 蔵田(4) - 齋藤(3) - 徳江(3)
2004.11	愛知	ロング	3位	前田裕太(4)

## 第 16 回東工大 OLT 杯報告書

実行委員長 齊藤孝男 23 期

去る 10/10、埼玉県横瀬町において第 16 回東工大 OLT 杯が開催されました。戦後最大級とも言われた台風 22 号が関東地方を直撃した翌日の開催となりましたが、当日は小雨がパラつく程度で、参加者も事前・当日合わせて 160 人と、史上稀に見る盛況の中、大会を行うことができました。

### 結果

OLT 杯 クラス	優勝	前田 裕太 (4年)	1:04:33
	準優勝	北崎 茂 (3年)	1:21:28
	3位	小山 温史 (1年)	1:26:34
新人杯 クラス	優勝	山崎 啓吾	1:01:45
	準優勝	村上 一輝	1:17:21
	3位	村上 巧	1:30:39
つばめ杯 クラス	優勝	仁多見 剛 (20期)	1:32:46
	準優勝	奥田 健史 (16期)	1:47:28

### 講評

OLT 杯クラスは、前年度チャンピオンの前田(4年)が他を寄せ付けず圧勝し、見事防衛を果たした。これは現在の實力からすれば順当であると思われるが、他の人にももう少し頑張ってもらいたと思う。前田は 11/7 のロングインカレで 3 位入賞するなど、好調を維持しているのが今後も頑張ってもらいたい。2 位の北崎(3年)は前年に引き続きの順位となっている。北崎は OLT 杯では新人クラス 1 位、2 位、2 位と毎回高順位を取っており、相性の良い大会になっているようだ。そして 3 位には新人の小山(1年)が入った。新人での入賞は世古口氏(16期)以来であり、将来が期待される。

新人杯クラスは山崎、村上(一)、村上(巧)の順になった。しかし 3 位とそれ以下の差はいずれも 10 分以内であり、全員にチャンスがあったものと思われる。その中で山崎は上手くまとめて帰ってきたのであろう。山崎はロングインカレでも入賞しており、小山とともに将来が楽しみである。

つばめ杯は仁多見氏が連覇を果たした。しかし、OB が 3 人しか参加しない会内杯というのはいかにも寂しい。確かに西日本大会や山岳耐久レースと日程が重複するなど、運営者側にも配慮が足りなかったのは事実である。次回からは運営者側が日程を調整すると共に、OB の皆様も是非頑張って参加していただきたい。

## OLT 杯を振り返って

24 期 前田裕太

まずはじめに、台風による土砂降りと大荒れの悪天候の中を準備していただきました運営者の方々に心からお礼を申し上げます。弱小校の会内杯ながら、インカレロングの 4 週間前という重要な時期に難易度の高い四番金昌寺での開催とあって、インカレに向けて本当にいい練習ができました。

今回の OLT 杯では、学生トップレベルのタイムがどの程度のものなのかを部員たちに示すことが自

分のエースとしての役割だと考えていました。スタートして地図を裏返した時には四番金昌寺にはかなり易しめのコースだなと思いました。しかし前にとて苦勞した記憶のあるこのトレインへの警戒心は強く、終始防戦一方ののろのろレースで、単純に巡航だけで川上君に大きく差をつけられてしまいました。加えて途中の尾根に乗る区間で途中で現在地が不安になってプランを変更したことがあだとなって6分くらいのミスをしてしまい、川上君には大敗しました。

ここから2つの教訓を得ることができました。まず1つは、レース前にあまりに難しすぎるコースを想定しているとたとえ実際のコースが思いのほか易しいと感じてもその割にはスピードを上げられないということです。もう1つは、ミスの中にはプランがまずい場合だけでなくプラン自体は良かったがそれを最後までやり通せなかったことによるミスも多く、プランでやると決めたことを現地でやり通すことが大切だということです。これらの教訓はインカレロングでフルに生かすことができました。

トータルとして、インカレに向けた練習の場を提供するという運営者の意図がよく表れたとてもいい大会だったように思います。運営者の方々、本当にお疲れ様でした。

## O L T 杯所感

20 期 仁多見 剛

祝つばめ杯連覇、と言うわけで、レースの報告も兼ねて、書かせていただきます。

昨年は10名近くの参加者がありましたが、今年は3名のみ出走。今年は西日本大会や山岳耐久レースと重なってしまったので仕方がない。

テラインが四番金昌寺という、激斜面な場所なので、誤ルートや下り間違いは致命傷。また、他の2名に比べてそれほどスピード差があるわけではないので、無理な勝負を仕掛ける必要もない。よってスピードよりも正確さ、難しいルートよりも辿りやす

いルート、遠回りでもチェックの取りやすいルート、を念頭に行くことにする。

会場にて、運営の面々と久々に会う。あのテラインを選び、更に前日には台風の直撃を喰らい、どうなっているかと思っていたが、皆さん元気そうで一安心。

スタートまでの登りは相変わらずつらいが、かつての埼玉県協会大会の頃に比べると全然楽に感じる。息が上がったりすることもなかった。今日は行けるな、と実感。

外部(つばめ杯含む)のトップスタート。前走者は他クラスのみ、スタートからの登り斜面で地図読みをしつつ進んでいたら早速ライバル2名に追いつかれ、あっけなく先行を許す。更に2へ向かう下りの激斜面で右手薬指を強打。左手でサムコンパスを使っているのさほどの支障はないが、今後が思いやられる。

先行したはずの2名はその先の2ポや3ポでツボっていたところを捉えるが、3番はみんなそろった左の沢へパラレル。その可能性を考慮していたのですぐにリロケートできたが、当然のごとくみんなついてきて、4ポ、5ポまで先行されてしまう。

5 - 6, 今日最初の難題。普通に考えれば2ポの上の尾根に取り付き、尾根辿りで攻めるのが順当だが、今日のこの調子だとつるまれてしまうのがオチ。この後の6 - 7 - 8の区間でパックになるのだけはなんとしても避けたかったので東の沢道を走るルートを選択。アップこそ多少増えるがスピード、確実性とも上。ミスした場合のダメージも考慮してこちらのルートを爆走することにする。

ここで予定通り2名を切り離し、斜面斜め切りの難レグ(6 - 7 - 8 - 9)は慎重になりすぎるくらい慎重に進み、ロスタイムは大きいながらもツボりは無くゴールへと向かう。

今回、つばめ杯を取ることに意識を集中させたので、レースそのものとしてはいつもの自分の攻め方ではなくちょっと残念な感じがした。(尾根辿りをあえて避け、単調な道走りを選択するなど、普段では考えられないルート選択。たとえ遅くなっても、

イヤらしい尾根攻めを楽しんでいきそうなところ。) それに現役生にあとちょっとの差で負けてしまったのが残念(1分差で3人に負けてしまいました)。

今年は山岳耐久レースや西日本大会と日程が重なったため、出られなかった方もいらっしゃるかと思います。それに、来年は今年の、大変良い出来だったOLT杯を運営したメンバーがライバルになるわけです。優勝カップはそう易々とは渡さないぞ、と強がってはおりますが、どうなるやら。

最後になりましたが、運営の皆様、お疲れさまでした&ありがとう。

## 第12回クラブカップ7人リレー 開催

10月3日に長野県駒ヶ根高原にてクラブカップ7人リレーが開催されました。

その中、19期で現幹事長の円井さんが率いる多摩-Aチームが見事優勝を果たしました。円井さんはチームの中でアンカーをつとめ、タッチ時の2位から見事逆転1位となりました。また、他にも22期の菊沢さんとOLT4年の前田君が所属する多摩-Bチームが8位という好成績をおさめ、「ファームチャンピオン」(各クラブで2番目にゴールしたチームの中でトップ)として表彰されました。

他にも、12期の浅野さんや20期の倉沢さんなど、多くの方が出場されました。

## 監督として、選手として

### ~クラブカップ2004

多摩OL 監督 Aチーム7走

東工大OLT 19期 円井基史

昨晚から降り出した雨は一向に止む気配がないが、目の前のレースはさらに熱気を増してきたように感じられる。序盤の混戦が終息し、次第に有力チームが頭角を現しつつあった。そんなレース中盤、ステージ中央の速報ボードには、緑の目玉が4つ、ギョロリと光っていた。多摩OLのシンボルマークの、あの特徴的な目玉である。速報ボードの3、4位に、多摩のA、Bチームが寄り添って並んでいた。

多摩OLはクラブカップに向け6月に始動した。9月までの4ヶ月間でこなした参考レースは9レースに及んだ。練習会3回に合宿1回。合宿のメニューは、クロカン走に始まり、ミニレース3本、オプションメニュー6本、朝ジョグ、チェイシング・コンピ、ランオブ指導、そしてクラブ対抗戦と続いた。練習会では、縮尺を本番と合わせた上で、ミニレース2本、歩測練習、チェイシング・コンピ、リレー。その他にも、片斜面で直進が要求される赤城や富士において、やはり縮尺を合わせ、自主トレを行ったメンバも少なくなかった。

レースはいよいよフィナーレを迎えようとしていた。トップのTeam白樺の7走アンカーが出走して7分半後、多摩Aチームが2位で会場に現れた。タッチを受け、声援の中、レーンを駆け下る。スタートまでは長い道走り。降りしきる雨の中、テープ誘導を淡々と辿り、静かな森に入る。地図から読み取れるテクニカルなレグが、そして雨のしたたる薄暗い静寂の森が、大きな口を開けて獲物を待ち構えているような、そんな不気味な雰囲気醸し出していた。一步一步進める歩みが、魔物の住む核心部へ近づいている気がして不安に駆られる。このコースは本当に難しい。「これは荒れるな」、そう直感した。正直チャンスだと思った。見えなくなりかけたトップの背中が少し大きくなっ

た気がした。

会員数 60 以上を誇る大クラブ多摩 OL。下は中学生、上は 70 代、会員のバックグラウンドも様々で、その多様性と層の厚さが多摩の特徴であり強さである。クラブカップへは 5 チームを送り出した。目標は、A チームの優勝、B チームの入賞・ファームチャンピオン、C チームの over 300 points、D・E チームのウム無しペナ無し完走。結果として 3 チームを表彰台に立たせること。それが今年就任したばかりの新米監督が描いた壮大な物語であった。

地図を裏返してのコントロール番号の確認動作がぎこちなく、脱出のプランニングが追いつかない。コンパスが曇って、ベアリングセットに手間取る。コントロールで長時間立ち止まってしまう。動き出しても、ミスが怖く、スピードが上げられない。突然、空から降ってきたかのように、京葉 OL のアンカーが逆方向から猛烈なスピードでアタックしてくる。何だ、そのスピードは。まさか追いつかれた？ その圧倒的なスピードを目の当たりにし、自分の遅さが際立つ。動揺し、次のコントロールでミス。甘い！ 気持ちを引き締め、長い直進を慎重にこなす。車道に躍り出る。この坂を登れば 1 つ目のビジブルコントロールだ。待ってるよ、大観衆ども。さあ、教えてくれ。トップとの差は何分だ？

35 の手持ちの駒を使い 5 チームの最適解を導くことは、この世で最も難解なパズルに感じられたが、また同時に、やり甲斐のあるタフで楽しい作業でもあった。同一コンセプト 4 コース×4 人×1 チームのインカレリレーと比べると、今回は、異種コンセプト 7 コース×7 人×5 チームであり、複雑さが断然異なる。7 区間それぞれに特徴付けがなされており、かつ、制限選手、表彰制限を考慮しなければならぬ。さらには上位チーム候補に故障者が続出した。果てしないパズルであった。実はこの部分で重要だったことは、パズルの正解を導くことよりも、パズルを解く過程において各選手と交わしたコミュニケーションと、その中で培われたチームの共有意識にあったように思う。

道の曲がりから直進という何ともない簡単なレッグだった。第 1 ビジブルコントロールをトップで通過し、スピー

ドは遅いがここまでノーミス。勝利はほぼこの手中にある。ピークを巻き終えた時点で現在地がぼやける。コントロールの近くには来たはずだが、フラッグが見えない。進んでいる方向とコンパスの指す向きがいつの間にかずれている。不安になり少し戻る。コントロール発見。しかし隣接。ここは一体どこだ。落ち着け。つかみかけた勝利を、この手のひらから滑り落とすわけにはいかない。深い沢を確認する。ちっ。まだ手前か。先へ進む。正しいコントロールを発見。残すは第 2 ビジブルコントロールとラスト・コントロールのみ。勝利を確信する。泥沼化した急斜面を器用に駆け下り、歓声のるつぼに落ちて行く。テープ誘導を辿る。仲間が待ち構えている。ウィニングラン。大歓声の中心へ突っ込んでいく。色とりどりの風景に包まれる。観客すべての視線を全身に浴びる。腕を差し上げる。そう、オレ達はやった。We made it!

表彰式直前、C チームが over 300 points を獲得した知らせが入る。多摩陣地で歓声上がる。8 位でファームチャンピオンを獲得した B チームと合わせ、見事 3 冠を達成。壮大な夢物語が現実のものとなった。結果として、多摩 OL から 3 チームが表彰台に登った。そして、3 年振りにクラブカップを奪還した。

## OLT 夏合宿の感想

20期 川俣智

印刷係の岡部君から夏合宿の感想を書くように厳命されていたのを締め日前日になり思い出したので書くことにします。

とはいえ、参加したのは大コンパだけ、しかもほとんど OB としか話していない。しかも去年のつばめ会合宿と違い \*\* 氏のぶっちゃけ話もなく、また、OLT 杯の時の \*\* 氏・\*\* 氏(プライベートを考慮し名前は割愛・3 名ともインカレエリートもしくは部長の経験者)のような勇姿を見ることもなく、非常に印象が薄くなってしまったことは残念だった。

...しかし、“彼”がいたのである(奥田氏ではない)。

おそらく 20 期で一番数多くのメダルをインカレで取っている、もとい、松澤からもらった気がする“彼”。倉澤は多分インカレはMA でとった1つだけだと思うし、秦野や長藤がインカレメダリストになった記憶もない。

...しかし村田氏をはじめとする、我々飲み会のみ参加組は“彼”にはあっていないのである。“彼”は木曜～土曜朝まで夏合宿に参加しただけであったのである。

...それなのに!“彼”は個人戦やらリレーやらで大量に入賞して去っていったのである。そして彼のせいで私が飲むことになるうとはっ！蛙の被りものまで！しかも、マックスコーヒーで一気させるなら代走秦野でいいだろ！とか。

...でも、久々に「学生注目！」もやったし、そう言う意味では気分は悪くない(トチって粗相あったけど)、他にいろいろあったけれども(寝るトコがないとか)、準備してくれた人(詠み人知らず)、ありがとうございました。

...インカレの団体戦の一走の応援も山口インカレ以降やったことがないし、夏合宿の個人戦に至っては一度も走ったことがない。主役にはなりえないけど、機会があれば行ってみたいと思う。

こんなもんでいい？岡部君。

## 近況報告

今回、各幹事の協力をいただき多くの方に近況報告を書いていただきました。

## 近況

14 期 太田宏樹

皆様、非常にご無沙汰しております。広報部長の岡部君より近況報告を会報に載せたいという依頼を受けましたので、つばめ会 ML に流したのをベースに加筆します。

OL は 2 年前の東日本以来休眠状態でしたが、昨年学連リレーの時 3 日間だけ復活しました。円井君と 2 分差、前田君と 1 分差という結果に「お～俺も捨てたもんじゃないわい」と昔憧れた？じじいの老獪さを発揮でき、自分なりに満足でした(笑)。それ以来またもや全くやってませんでした、そろそろシーズンオフ(後述)するので、またやりたいなと思っています。

さて、OL 休眠状態中に何やってたかということ、最初は Run でした。サロマ 50k、四万十 60k、アテネフル、ホノルルフルなど走ってました。ウルトラマラソン 2 つははいずれも 100k のサブ種目ということもあってか、どちらも入賞。しかし肝心のフルの頃は既に疲れ果てていて、完全に観光モードでした。その次は Bike(オートバイじゃなくてロードレーサー、自転車のこと)で、更に今夏からはトライアスロン(Run と Bike ができれば、当然の流れでしょうか)をやっています。

最近は特に Bike にはまっていて、家から山中湖まで道志みち経由そこから富士山一周、つまりジャンボを回って再び家まで戻るルー

ト計 220km がさほど疲れず走れるようになりまし(しかしOLを休止しているにも関わらず、ジャンボへ合宿へ行くのと全く同じ道を通っているとは如何なものか、と自分ですら思ってしまう(笑))、レースにも出場して OL で言えば M21AS-M21B レベルなら入賞できるようになりました。

上記の通りなので、トライアスロンではいつも極端なレース展開になります。何しろ Swim をまともにした記憶は中学からありません。当時は確か 1000m 泳げたはずですが、大会 3 日前に泳いでみたら何と 50m しか泳げません。この時ばかりは大会が足の着くプールでよかった(死なずにすむ)と思ったものです。デビューした大会は 700 人参加でしたが、Swim が 550 位、Bike でごぼう抜きして一気に 70 位まで上げ、Run で更に抜いて 40 位とかでした。

その後、海で泳ぐ本格的な大会にも参加し (Swim750m、Bike20km、Run5km でスプリント種目と呼ばれます)、初めてウェットスーツを着ての泳ぎに感動し(ウェット効果は絶大です。とにかく体が浮くので楽に泳げます)、こちらも初入賞しました。今は春に行われるロングの大会 (Swim3000m、Bike150km、Run42.2km) にいよいよ挑戦しようかなと考えているところです。

皆さんの中にも Bike(これは結構多いみたいですね、蔵田君や平松君含め)や Swim、そしてトライアスロンされる方いらっしゃいましたら、是非一緒に大会に行きましょう。たまには OL を離れたことをやってみるのも面白いですよ。戻ってこれなくなっても責任は持たませんが(笑)。

・・・と言いつつ、私自身はこれから筑波・千葉・JC・早稲田・IC・全日本のあたりだけ OL 復活しようかと思ってます。大会で見かけたら、是非声

をかけて下さいね。

ではでは、皆様と又お会いするのを楽しみにしています。飲み会だけでも誘ってくださいね。

## 近況報告

### 16 期 小坂猛

16 期の小坂猛(こさかたけし)と申します。

簡単に自己紹介をしますと、東工大 OLT では珍しい大阪出身の 31 歳、独身、男。六類 社工 社工院とすすんで、いまは NEC で営業をやっています。学生時代は目黒本町や青葉台の寮に住んでいましたが、現在は会社の先輩が前に住んでいた部屋をそのまま譲ってもらった関係で、原町(最寄り駅は洗足)におります。偶然とはいえ、学生の頃よりも大学に近くなってしまいました。ごくたまに洗足池の周りを走ったりしますが、あの辺りはあまり変わっていませんね。大岡山のキャンパス内はずいぶん変わってしまったようですが。

近況報告を、との依頼を受け、何を書こうかしばらく考えましたが、プライベートは何の進展も無いし、個人的な趣味の話をして面白くないので、今の仕事の話しようと思います。

私は、前述の通り、NEC というコンピュータメーカーに勤めているわけですが、そこでどちらかと言えば意外な製品の担当をしております。それは、じゃ

じゃーん

「GPS」  
です(わざわざ改行するほどのことではないが)、業界の方以外はほとんど知られていないと思いますが、NEC でも GPS を作っております。警備会社で、爺さん婆さんや子供に GPS 端末を持たせて万が一にも安心、といったサービスをやっていますが、あのようなものだと思って下さい。

ご存じの通り GPS は、高度約 20,000km にある GPS 衛星から飛んでくる電波を受信して、その情報をもとに位置(緯度/経度)を計算するシステムで



す。地上では携帯電話、テレビ、ラジオ、無線等の電波がピンピンに流れていますが、それら雑音（ノイズ）の中から、宇宙の彼方から飛んでくる衛星の電波を選び出すのは至難の業です。GPS に関係する各社は、おのおの色んな技術を使って問題をクリアしている（クリアしようとしている）訳ですが、あまり技術的な話をすると、単なる「NEC の営業の人」になってしまうので止めておきます。ただ、2007 年以降に発売される携帯電話には原則 GPS 機能を搭載することが義務づけられるなど、カーナビだけに留まらない様々な場面で GPS が使われることが期待されています。今後数年の間に、今では想像のつかないほど高精度であったり、コンパクトな GPS 端末が世に出ているかもしれません。そういった「これから」の分野に携わっているので、大変変化に富んだおもしろい毎日を送っています（単に忙しいだけとも言う）

また、今後想定される GPS の用途として個人的に一番期待しているのが、「スポーツ観戦への応用」です。今年の夏頃に会社がスポンサーになっているプロゴルフ大会にて、各選手に GPS 端末を持たせて、ギャラリーの人々がお目当ての選手が今どこにいるのか分かるシステムを導入しました。マスコミ各社に（割と）大きく取り上げられたので、ご存じの方もいらっしゃるのではないのでしょうか？スポーツにおいて「観る」要素が重要視される昨今、ゴルフに限らず様々な屋外スポーツに用いられる可能性を秘めていると思っています（自転車ロードレースやマラソンなど）。携帯電話の各キャリア辺りが、ポロモーシヨンの一環として大会のスポンサーとかになってくれると嬉しいんですけど。ドコモがヨーロッパでの FOMA 普及のためということで、有名レースのスポンサーになってくれたりしないかな？ということは当然「小坂ヨーロッパ進出」だな、などという妄想だけが先走っている今日この頃です。

とりとめの無い話になってしまいましたが、今後とも宜しく願います。近いうちに会えたらいいですね。

## NO Vacation

19 期 萩谷太郎

19 期の萩谷です。

OLT の行事に全く顔を出していない故、ほぼ消息不明の人間になっていると思われるが、まだ息は途絶えていない。

東工大生、とりわけ情報系の王道に則り、院を卒業し大手メーカーの研究部門に進んだもんだから「ここも男だけかよっ！」と泣きながら絶叫したくなるようなステキな環境に恵まれていることは相変わらずである。

合コンに勤しむ日々だが、戦果はいまいち。

大学時代から演劇部と兼部していたことから想像に難くないように、私は割といろいろなものに手を出す。でも、(オリエンもそうだったが)みんな中途半端になってしまうのがよくない。

その傾向が、社会人になりより顕著に表れている。社会人になってから始めたことは、スキューバダイビング・パラグライダー・マラソン・英会話...と多様。なので、各話題には事欠かないが今回はその中でも、一応自分なりに真面目にやっているほうの中国語について書きたい。(ちっとも身についてないけど...)

中国語勉強は2年前ぐらいに始めたが、3ヶ月ほど前から N VA に通いだした。

いくら中国経済が好調とはいえ、中国語なんて英語に比べたらまだまだまだまだマイナーも甚だしい。その中国語で、N VA では「自分で時間を選べて、レッスンも最大3人の少人数制！」

そんな都合のいい話が...、ある意味あった。ある意味ね。ホントある意味。ツッコミどころは書ききれないぐらいある。

まあ、授業形態を端的に言うとネットワーク授業である。

授業を受ける方法として2つある。1つは、スクー

ルに置いてある電話端末を利用する方法と、自宅のテレビ利用する方法である。

後者は、散々TVでもCMしているので見たことがある人は多いとは思いますが、お茶の間留学と呼ばれているアレである。

とりあえず、どーでもいいが画質悪すぎる。入学案内を受けたときに「コミュニケーションの7割はジェスチャーなどの目から入る情報である」なんて偉そうなことを言っておいて、この画質がよ！ネットワークが安定しないのでADSLなどは使わずISDNを使っていますって...、オイオイ。いまだきISDNかよと。スクールに置いてある機材もISDN回線を利用していることはもちろん、自宅で学習するときもADSLを導入したときにアナログ回線にした人はまたISDNに戻す必要がある。

しかも、画質から言って64kbpsとおもいきや128kbps。つまり、ISDNの2回線を同時に占有するのだ！

当然、電話料金も2倍。で、この画質!?(推定フレームレート(\*1)1fps、画像サイズQVGA(\*2))

さらに、値段が高い。電話授業なんだからむしろ安くして欲しいぐらいなのに、通常の授業料の他に、スクールで学習するときは施設使用料として1回に980円も取られる。

ももとの授業料だって2500円ぐらいなので、40分の授業になんと3500円！

高い！

せめてこの施設使用料を削りたいが、そのためには機材をレンタルして自宅で学習する必要がある。

そのレンタル料も高い！

ISDN 2回線分の電話代が掛かるほか、機材レンタル料が約3000円/月。この機材は買えばなんと9万円！

パソコンが買える値段である。ただの、テレビ電話onlyの黒い箱がなんでPCより高いのだ？

さらにテレビ電話の使用料として約3000円/月。このテレビ電話使用料が謎である。インターネット

回線を使って接続しているのでサーバーに負荷が掛かるわけでも無し、なんでここでお金を取るのか？

5000円でカメラを買わせて、PCに接続すれば全て解決するのではないか??本当に人を馬鹿にした商売である。あこぎにもほどがある。

しかも、教師が毎回変わるのでいつまでたっても授業になれない。

毎回0から人間関係を構築しなければいけないことに、ストレスを感じる。

教師のほうも、それは結構ストレスらしく、キレル先生もいるし...

なんでも、教師のほうも薄給+過労らしい。

まあ、NVA本体が儲かるわけだ。

と・・・文句を垂れつつも、相変わらず続けている私である。。

それは、

- ・なんだかんだ言っても、自分の都合のいい時間に予約を入れられて

- ・前日までならキャンセルが効くし、

- ・仕事を抜けて受けられるし、

- ・なんにせよ語学は慣れであるので、会話の機会が作れることは大きい

- ・自分が自宅でコツコツ勉強するタイプでないので、通うしかない

などの利点を考えると、お金の余裕がある今のうちに自己投資の意味をこめて続けている。

ブーブー文句いいながらも、受け入れている...

結婚もきつとこんなものではないかと思う今日この頃。

おわり。

(\*1)フレームレート 動画は静止画を連続的に見せることによって動いているように見せていることぐらい、東工大生なら知っていると思うが、その静止画が1秒間に何回

切り替わるかの数。フレームレートが低いほどカクカクした不自然な動画になる。ちなみにテレビは 30fps(= frame per second)で 1 秒間に 30 回静止画が切り替わっている

(\*2)QVGA(Quarter VGA) VGA がテレビの画質(640x480 画素)でその 1/4(320x240)である。QVGA なんて単語は、画像処理の専門用語だと思っていたが初めて QVGA の液晶が載った携帯が出たときに広告ででっかく「QVGA 液晶搭載」といったもんだから、いつのまにか一般人でも知っている単語になってしまった。驚きである。

## 近況報告

### 20 期 仁多見 剛

20 期の仁多見です。OB でオリエンテリングを続けている人があまり少なく少し寂しいかと思っていましたが、ここ数年は各代 1 - 2 名ほど、オリエンテリングを続けている人がいてうれしい限りです。また最近マウンテンバイクに転向する人もいるようで、意外なところで出会えるような気がします。といっても、あまり器用ではない私は相変わらずオリエンテリング一筋でやっております。現役学生の宿舎でドライバー役を務めているのは昔と変わらずです。去年、今年と結構合宿に顔出ししています。またつばめ杯は 2 連覇しました。

今年は、私自身は参加していませんが、日光インカレ実行委員会に OLT 関係者が何名か名を連ねているようです。(把握している限りでは、倉澤・山根・菊澤・蔵田の名前がありました。他にもいるかと思えます。)今年インカレクラシックが秋口に、インカレショートトリレーが 3 月開催に変更になった記念すべき大会です。インカレ実行委員会に東工大関係者が主力メンバーで名を連ねるのはいつ以来でしょうか。ホームページは <http://www.orienteering.com/~ic2004/> から。

また既にご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、社会人になってから多摩オリエンテリングクラブの一員になっています。いま現在在籍しているメンバーとして、以前から在籍している円井さんの他、菊澤君・徳江君・前田君(まだ現役学生ではありますが、掛け持ち

で)を迎え、OLT は多摩 OL のなかでも一大勢力になりつつあります。

また今度の多摩 OL「ジュニアチャンピオン大会」は、実行委員長仁多見、プランナー兼競技責任者菊澤というメンバーで運営しております(ちなみに前回の実行委員長は円井さん)。皆様、1/23 は是非とも「平井」へお越し下さい。歓迎いたします。詳細は <http://www.orienteering.com/~tama> からどうぞ。事前申し込みに限り駐車場の利用が出来ます。

## 富士での生活

### 21 期 浅野剛司

お久しぶりです。21 期の浅野です。現在は旭化成(株)に勤務しております。勤務地は静岡県富士市で、オリエンをするとしたら、ええ、するとしたら最適の場所です。これからの季節、雪の富士山を見ながらの通勤は贅沢そのものです。ところで、就職半年にして、いきなり勤務地変更なしの異動がありました。別に、何かやらかしたわけではございません。この前、泥酔状態で、社長の前でスピーチをさせられたのですが、そのときに変なことを言った覚えもないですし。

とりあえず、オリエン関連を少しだけ。最初に、オリエンを完全に辞めてしまったように書きましたが、以外と離れられないもので、会社のレクでオリエンをしました。もちろん、幹事をしたので、結果的には地道な普及活動みたいのをしてしまいました。先輩や上司の家族の人もたくさん参加したため、非常に疲れました。また、たくさん来てくれた小さい子供たちを見て、素直にかわいいと思えるようになったのは年のせいでしょうか？

最近、休日と早く帰宅した平日は専ら英会話学校に通っております。いろいろ考えることがあって英語の必要性に迫られた気分になったのです。はっきり言って、くだらない劣等感だけですが、そこで出来た友達も増えてきたおかげで、富士の事をいろいろ知ることが出来るようになったのは収穫です。また、私にとっては関係ない話ですが、先生

の事を好きになる生徒が非常に多くて、それも面白いものです。特に、男の先生を好きになる女生徒が多く、その恋の行方を外から見ているのは面白い限りです。別にニタニタしているだけではなく、キューピット役をしているといった方がいいでしょう。先生を争っての女同士のバトルは凄まじいものがあります。おかげで(?)先生とのメールも頻繁で、もちろん英語です。こういう、愛だの恋だのという内容は難しいものですね(とくにうちの部の人には苦手な人が多いし)。ここの生徒や先生たちと、よく飲みや食事に行っているの、最近では東京方面に行く機会がめっきり減ってしまいました。家 東京駅が90分未満なのに、今では完全に田舎ものです。最近思うのは、田舎には田舎なりの楽しみ方があるものですね。

そんなこんなで、富士での生活を非常に楽しんでいます。ここで心配なことといったら、大地震と津波だけです。海から1kmも離れていないので、そのことは頭から忘れることはないです。ま、それも運命ということで。

最後になりましたが、皆さんの多方面でのご活躍をお祈りしております。

## つばめ会総会議事録

日時： 2004年12月4日(土) 16:00~17:45

参加者(敬称略)： 浅野(昭)、太田(Z)、齋藤(玲)、奥田、當銘、北村、円井、山田、岡部、平松、田中(淳)

### 議事内容

- 1) 全員自己紹介
- 2) 会長挨拶 高橋氏のメッセージを円井が代読
- 3) 前回総会議事録の確認(円井) 資料により説明
- 4) 昨年度活動報告(円井) 資料により説明

Q：活動が認知されていない。活動をMLで報告した方がよいのでは。

A：MLには流しているはず。抜けがないか確認す

る。

活動をアピールするようにしたい。

- 5) 会計報告(山田) 資料により説明  
<概要>

2万近くの赤字。インカレ広告費が高いため。会費を払っていただけていない。

- 6) 名簿・ML報告(仁多見(代理 円井)) 資料により説明

Q：データとして学科が抜けている

A：修正する。

Q：2月に改訂するのか。4月以降でよいのでは？

A：検討する。

- 7) 会報・HP報告(岡部)

・HomePage更新中。

・会報にOBの近況を載せた。

Q：会報の配信は、MLだけかすべてのアドレスか？

A：MLだけ。

Q：会報2ページの写真は、転載の許可を取ったのか。

A：取っていないが、インカレプログラムに載った物なので問題ないとする。事後報告をする。

- 8) OLT近況報告(OLT部長 北村)

日頃の活動内容、部室の様子、夏合宿、工大祭、会報(WING)、今後の予定等を説明。

Q：OBに望むことは？

A：合宿に来て欲しい。

Q：合宿でOBにどのような役割を期待するのか？

A：レベル別に指導をして欲しい。

MLで参加者を募るだけでなく、個別にメールした方がよい。

- 9) コーチ近況

今年は、田中(ヘッド)、徳江、齋藤の3人体制。

インカレミドルセレで10人通過。通過者数は関東2位。

技術合宿を開催

秋合宿 群馬

インカレロング対策合宿 茨城(プラトー里見)

冬合宿 12/25~27 富士宮

直前合宿 日光を予定

インカレミドル&リレーは 3/12-13 に開催される。

Q:MLにセレクションの等の寸評を流して欲しい。

A:検討する。

Q:OBへの要望は?

A:OLT部長も言っているが合宿に参加して欲しい。

10) 今年度の活動予定(円井) 資料により説明

<予算関連>

・応援広告(担当:M1)

予算を20000円とする。入賞した際の報告書への広告料は含まない。

・インカレなどへの差し入れ(担当:幹事・コーチ)

予算を12000円(3000\*4;セレクション、インカレ本番)とする。

・OLT杯の新人賞品提供(担当:幹事・M1)

予算を3000~5000円とする。

具体的には新入部員が男性のみの時には3000円女性が入れば増額で対応する。

・新たに、全日本選手権21E出場OBOG及び現役学生への激励金

予算を1人あたり1000円とする。2004年度は、円井、前田裕太(4年)の2名で2000円。

・関東リレーへの選抜チームの参加

予算4000円。選抜チーム1人あたり1000円の参加費補助に相当。

<その他活動に関すること>

・コミュニケーション量の増加

事後報告等をMLで行う。

・HPによる広報(担当:岡部)

HP中に過去の資料の保存を行う。

・麻雀大会の実施検討

総会前に行うなど

・つばめ会MLへの参加率向上 情報提供の効率化

面と向かって会う機会を作って勧誘する。

・現状では実施が困難な活動;一部、形式を変更して実施可能性を探る

つばめ会合宿;参加者が集まらない点が問題。

OLT杯時に前泊する。

練習会、パーク-O+飲み会の組み合わせで実施。

(つばめ会会員家族向け超初心者向け練習会)

OLから離れてしまった人も参加できるイベントをやりたい。

祝電・慶弔金;報告が遅く、実施が難しい。

・本年度、ペンディングする活動

全日本リレー都道府県正代表OBOGへの壮行金

<OB会について>

出た意見を列挙する。

「OB会での活動に参加する世代構成はピラミッド型が理想。つばめ会は、各代の人数が少なく棒状になっている。」

「どこの組織も同じような物では?」

「卒業して3年くらいまでの代の人数が多くて、上が勝手に残るのはかまわないのでは?」

「コーチと同様に、義務のような感じにするのはどうか?」

「若いOBは、同期を誘って欲しい。」

「つばめ会の宣伝が足りない。」

話は発散方向にあったが、結論として

コミュニケーション量を増やして会の活動をもっと知ってもらうことで

会の活動への参加者を増やしたい。

と纏めた。

## 2004年度会計

2004年度(2003年秋総会-2004年秋総会)会計

収入の部(2004年12月4日時点)

	単価	口数	計
会費(社会人)	3000	15	45000
会費(学生)	1500	9	13500
		計	58500

支出の部

IC'04 広告費	30120
ICS'03 広告費	2920
プレセレ'03 差し入れ	1312
本セレ'03 差し入れ	420
OLT 杯賞品代	3465

関東リレー援助金	4000
IC'04 差し入れ	3150
松澤さん壮行金	5315
ICL'04 広告費	12105
OLT 杯賞品代	3570
ICL'04 差し入れ	2849
総会はがき代	5300
ICL'04 報告書広告費・郵送費	3185
	計 77711
繰り越し	
前年度繰り越し	157096
収入-支出	-19211
	計 137885

(単位:円)

## 2004年度つばめ会活動報告

年月日	イベント名	摘要
2003.11.8	第7回つばめ会総会	
2003.12.7	OLT 杯	新人クラス賞品提供
2004.1.31	新年会	
2004.2.8	関東リレー	東工大OB代表チーム出場 代表選手へ激励金
2004.3.13-14	伊賀インカレ	プログラム応援広告 サブリメント差入れ
2004.5.1	会報 Slope (15号) 発行	編集者:岡部氏(21期)
2004.7.17	名簿配信	編集者:仁多見氏(20期)
2004.8.21-22	OLT 夏合宿	多数OBが参加
2004.8.22	世界選手権	2004年世界選手権日本代表の松 澤俊行選手に激励金
2004.9.18-20	OLT 秋合宿	OB有志が参加
2004.11.7	愛知インカレロング	プログラム応援広告 サブリメント差入れ
2004.12		インカレ報告書広告
2004.12	会報 Slope (16号) 発行	編集者:岡部氏(20期)

一部、有志による活動を含んでいます。

有志の活動は、全てを網羅できていないと思われます。

## ML・ホームページについて

つばめ会会員間の連絡手段の1つとしてつばめ会ML(メーリングリスト)を立ち上げています。大会情報・観戦記、同期会・飲み会の連絡、近況報告など、お気軽に使ってください。メールアドレスは [tsubame@egroups.co.jp](mailto:tsubame@egroups.co.jp) です。ご不明な点がございましたら、管理者の仁多見剛氏 ([tsubame-owner@egroups.co.jp](mailto:tsubame-owner@egroups.co.jp))までご連絡ください。このMLに関するホームページ(登録メンバーのみ) <http://www.egroups.co.jp/list/tsubame> にもぜひアクセスしてください。

また、つばめ会のホームページが稼働中です。ぜひご覧ください。

つばめ会のホームページ(作成者:岡部健志(21期))

<http://www.geocities.co.jp/Athlete/4476/>

東工大OLTのホームページもリニューアルしました。ぜひアクセスしてください。

東工大OLTのホームページ(作成者:岡英樹氏(25期))

<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/3247/>

## 編集後記

今年につばめ会、OLT共にオリエン界での活躍には目覚ましいものがあります。

前田裕太選手(4年)がインカレロング(去年までのインカレクラシック)でOLT初の3位入賞を成し遂げ、小山温史選手(1年)はインカレロングエリートクラス出場に続き、ミドルセレ(去年までのショートセレ)をトップ通過しました。

OBの中でも、幹事長でもある円井さん(19期)が監督、アンカーとしてクラブカップリレーで優勝を飾り、仁多見さん(20期)は来年一月に行われるジュニアチャンピオン大会の実行委員長を務めます。

OLTでは大学卒業と同時にオリエンテーリングもやめてしまう方が多かったのですが、その状況も少しずつ変わってきているようです。そんな、再びオリエンテーリングに接する手助けをつばめ会ができれば・・・そんな活動をしていきたいと考えています。

最後に、原稿を執筆していただいたみなさん、ありがとうございました。

東工大オリエンテーリング部OB/OG会「つばめ会」会報

Slope 16号

発行責任者 円井 基史

編集責任者 岡部 健志([ta-keshi@mte.biglobe.ne.jp](mailto:ta-keshi@mte.biglobe.ne.jp))